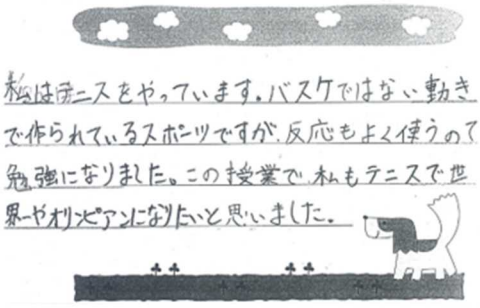
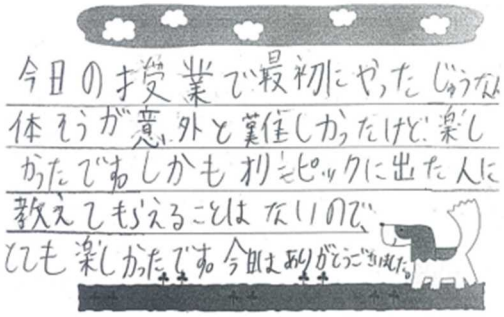
平成２９年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　札幌市　】

１実践テーマ	【Ⅰ、Ⅴ】
２実施対象者	札幌市立美しが丘小学校 ５年生（５１名）
３展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（　　道徳、体育　　） ② 行事名（　　） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　　（　　）
４　目　標 （ねらい）	スポーツの体験を通して、スポーツへの興味・関心を喚起し、オリンピック・パラリンピック競技への理解を深めていく中で、よりスポーツに親しもうとする心を育む。
５　取組内容	＜オリンピアンを招いてバスケットボール体験＞ 東京オリンピック・パラリンピックのマスコットの投票するために、オリンピックやオリンピックの理念を学習してから体験学習を迎える。オリンピックの体験談を交えながらのバスケット体験だったので、オリンピックに出場することの難しさを知ることもできた。 **○指導計画** 【４時間扱い】 ①道徳の時間：１時間 ◆私たちの道徳（小学校５・６年） １．自分をみがいて 「希望と勇気をもってくじけずに」の頁で、自分が描いている夢を記入し、自分事として考える。また、目標に向かって努力を重ねた人たちのコラムを読んで、希望と勇気をもってくじけないで努力することの大切さについて考える。 ②東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ･ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸﾏｽｺｯﾄ投票の際の授業 ◆ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ･ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸの理念及びﾏｽｺｯﾄの役割 ③体育科：１時間 ◆ｵﾘﾝﾋﾟｱﾝを招いてのﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ体験

	④道徳の時間：１時間 ◆私たちの道徳（小学校５・６年） ４．みんなとつながって 「生きる喜びを感じて」 ～真海のチャレンジ（佐藤真海）～  
６　主な成果	高学年は、『私たちの道徳』を活用した道徳の授業で、自分の夢をもち、夢や希望に向かって努力することの大切さを考える時間を設定している。その学習をより体験的なものにし、自分ごととして考える場として今回の学習を位置付けた。 自分の夢を叶え、貴重な経験をしている講師の方に指導していただくことは、子どもたちにとって夢を実感できる絶好の機会となった。 ・バスケットボール２００４年アテネオリンピック代表の矢代直美さんの講和は、実際に夢を叶えた方からの話は子どもにとってとても説得力のあるものだった。 ・体験は、子どもたちがより興味をもって取り組める活動であり、ボールを使った準備運動・ストレッチやボールを使った反応の練習など、普段の体育の学習でもすぐに取り入れられるものを紹介

	していただいた。 ・『やっている子』と『待っている子・見ている子』に分かれる練習のさせ方ではなく、全員が一斉に活動し、一斉にアドバイスを受けるという活動は、これから始まるバスケットボールの学習で、教師にとってたいへん参考になるものだった。
7実践において工夫した点（事業の特色）	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	オリンピック・パラリンピック教育が小学校教育においてどのような価値があるかを、教科横断的な見方で更に検証し、学校として子どもに本当に必要な学びの場を外部講師と連携して設定したい。また、全教職員とこの学習についての共通理解をより進め、継続的な学習にしていきたいと考える。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。